大分県人教　ニュース

じんけん

JINKEN
第141号
（通巻 268号）
2021年9月17日発行

INDEX

開催形態が変わります！

特　集　第43回大分県人権・部落差別解消教育研究大会
ならびに第６回大分県人権・部落差別解消保育研究集会
～ 部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けたヒューライツフォーラム2021 ～
開催のご案内（最終案内） …… 2
報告内容一覧表 …… 4

だれもが参加できる講座をめざして　オープン講座 …… 8
あなたのまちに届けます　出前オープン講座 …… 9
What'sじんけん …… 10
共に生きる社会をめざして その３
こどものまなざし …… 11
「あの子は、すごい」
豊後大野市　中学校一年　幡手愛理さん
ちゃみちゃん ＆ じょんくん …… 11
「それぞれの高校生活」の巻
INFORMATION …… 12
第15回ヒューライツ作品の募集について

公益社団法人
大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
大分県大分市大字下郡496-38 大分県教育会館内
TEL: 097-556-1012　FAX: 097-556-0864
URL　http://kjkoita.jp
E-mail　hello@kjkoita.jp

◀大分県人教のホームページはこちら

印刷　小野高速印刷㈱

開催形態が変わります！

第43回大分県人権・部落差別解消教育研究大会
ならびに第６回大分県人権・部落差別解消保育研究集会

～ 部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けたヒューライツフォーラム2021 ～

開催のご案内（最終案内）

公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会では、毎年開催地の人権教育研究会とともに「大分県人権・部落差別解消教育研究大会」を開催し、多くの方にご参加いただきながら、人権教育や人権啓発のひろがりと推進を図るとともに、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けた教育の研究を続けてきました。

2018年の日田大会からは、大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会主催の「大分県人権・部落差別解消保育研究集会」との合同開催とし、乳幼児期における人権保育の有り様や課題を学び合う場として、乳幼児期にかかわる分科会を設定しています。

参加者のみなさんが、部落差別解消をはじめとする人権尊重社会を創造する担い手として研鑽できる場となることを強く願いつつ、2021年度は竹田市において開催する準備を進めてきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染状況が第３ステージにあることから、主催者と共催者で協議を行い、感染症拡大防止対策として「現地開催を行わない」ことを９月６日に決定しました。開催形態も、大会冊子の作成とともに、録画配信コンテンツの準備を進め、11月１日から３ヶ月間の『オンライン開催』という形に変更しました。

オンラインでの開催となりますので、14の分散会は大会冊子での誌面報告に代えることとなり、報告者をはじめとする参加者のみなさんに実践交流の場を保障することができなくなりました。しかし、冊子を活用しながら協議の時間を保障していく観点から、新型感染症の感染状況が落ち着いた場合に、報告者と協議して、レポート学習会の場を検討していきます。

不明な点や取り組み課題につきましては、大分県人教事務局までお問い合わせください。

■大会テーマ　**差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう**

■地元テーマ　**つなげよう　ひろげよう　共に生きる人権文化を**
～ 名水と温泉と高原のまち 竹田 ～

■開 催 形 態　【全体会】大分県人教ホームページを介した録画配信
【分散会】大会冊子による誌面報告（持込資料などを追加）

【動画の視聴の仕方】

県人教ホームページ URL　http://kjkoita.jp

県人教ホームページ から **HF2021特設ページ** に進む ➡ **HF2021特設ページ** から **動画配信ページ** に進む ➡ **動画配信ページ** に移動する際に **パスワード**を打ち込む ➡ **動画配信ページ** の中にある見たい動画のボタンをクリック

■配 信 期 間　2021年11月1日（月）　から　2022年1月31日（月）

■資　料　代　３，５００円

■配信コンテンツ一覧

1	主催者 あいさつ	公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会 会　長　　後藤　哲郎
2	主催者 あいさつ	大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会 会　長　　佐藤　成己
3	共催者代表 あいさつ	ヒューライツフォーラム2021実行委員会 実行委員長　　志賀　哲哉
4	基調提案	公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会 事務局員　　大野　剛志
5	特別講座	「僧侶による差別発言と差別の解消の歩み」 真宗大谷派 明尊寺住職　　藤村　暢さん
6	記念講演	「部落差別解消推進法と同和教育の課題」 －部落問題をどう語り、伝えるのか－ 世界人権問題研究センター研究員　　石元　清英さん

主　　催　　公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会

共　　催　　竹田市　竹田市教育委員会　ヒューライツフォーラム2021実行委員会

後　　援　　朝日新聞大分総局 / 一般財団法人大分県教育会館 / 一般財団法人大分県私学協会 / 一般社団法人大分県身体障害者福祉協会 / NHK大分放送局 / エフエム大分 / 大分県 / 大分県議会 / 大分県教育委員会 / 大分県教職員組合 / 大分県高等学校教職員組合 / 大分県高等学校PTA連合会 / 大分県公立学校教頭会 / 大分県公立高等学校教職員組合 / 大分県国公立幼稚園・こども園会 / 大分県国公立幼稚園・こども園PTA連合会 / 大分県市長会 / 大分県市町村教育委員会連合会 / 大分県市町村教育長協議会 / 大分県児童養護施設協議会 / 大分県小学校長会 / 大分県商工会議所連合会 / 大分県商工会連合会 / 大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会 / 大分県中学校長会 / 大分県町村会 / 大分県農業協同組合中央会 / 大分県PTA連合会 / 大分県保育連合会 / 大分県立学校教頭・副校長会 / 大分県立学校事務長会 / 大分県立学校長協会 / 大分県隣保館連絡協議会 / 大分工業高等専門学校 / 大分合同新聞社 / OAB大分朝日放送 / OBS大分放送 / 学校法人平松学園大分短期大学 / 学校法人別府溝部学園短期大学 / 株式会社テレビ大分 / 公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 / 国立大学法人大分大学 / 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 / 社会福祉法人大分県聴覚障害者協会 / 社会福祉法人大分県盲人協会 / 同和問題に取り組む大分宗教者教団連絡協議会 / 西日本新聞大分総局 / 日本文理大学 / 東九州短期大学 / 部落解放共闘大分県民会議 / 部落解放同盟大分県連合会 / 別府大学 / 毎日新聞社 / 読売新聞西部本社 / 立命館アジア太平洋大学

※ 五十音順に紹介（全55団体）

問い合わせ先　　公益社団法人 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
大分市大字下郡496-38　大分県教育会館内　　電話 097-556-1012

第43回大分県人権・部落差別解消教育研究大会
ならびに第６回大分県人権・部落差別解消保育研究集会

～ 部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けたヒューライツフォーラム2021 ～

今年度は各地区研究会からの実践報告を中心に、28本の報告が届いています。しかし新型感染症の感染状況の悪化から、県人教主催のレポート検討会を中止としたため、十分な協議の時間を保障できず、報告者や司会者のみなさんにはメールや電話で調整を進めていただきました。

さらに、９月６日に地元開催の中止を判断したので、２日目の分散会は誌面報告をもって開催とすることになりました。例年のように、実践報告に参加者の思いを重ねながら、多くの発言をつないで分散会をつくることができません。

28本の実践報告を、職場の学び合いの場に活用いただけることを願っています。

報告内容一覧表（９月10日現在）

【 第１分科会 】　乳幼児期にかかわって

報告番号	タイトル・報告者・概要
1	お互いを大切に思いながら楽しく過ごせるクラスづくりをめざして 速見郡人権・部落差別解消教育研究会　（豊岡幼稚園）西　智恵 クラスの中に気持ちの切り替えが苦手で、遊びや活動への参加に時間のかかる晃さんがいた。晃さんの苦しさを知り、母親と連携をとりながら、集団の中で晃さんが楽しく過ごせるよう保育の工夫をした実践の報告。

【 第２分科会 】　人権確立をめざす教育の創造

報告番号	タイトル・報告者・概要
2	一心・信頼・前進　～35人笑顔でゴール～ 宇佐市人権教育研究協議会　（柳ヶ浦小学校）井口　三千代 新学期がスタートしたがいつまでも落ち着かない５年生。教室には行き渋りを見せる児童やルールを守って学校生活を送ることが苦手な児童や教室に入れない児童がいた。みんなが教室にいて、笑顔で卒業の日を迎えられることを願った２年間の取組である。
3	差別をなくすにはどうすればいいか知りたい 豊後高田市人権・同和教育研究会　（桂陽小学校）森若　明徳 昨年度担任をした６年生で５月の休校開けに、「新型コロナで受ける差別」を学習した際、感想の中に「差別をなくすにはどうすればいいか知りたい」とあった。『差別をなくす５項目』を説明し、掲示した。クラスや全校の困りを『差別をなくす５項目』を確認しながら取り組んできたことを報告する。
4	おとなになったとき、みんな笑い合って欲しい くにさき地区人権・部落差別解消教育研究協議会　（富来小学校）長谷川　はるえ 新設された知的障がい特別支援学級の担任となった私が、保護者や子どもの思いや願いに寄り添いながら、学校の存在やそこに在籍する子どもたちを「正しく理解」してもらえるよう試行錯誤した実践報告。
5	子どもたちと同じ歩みで　～学び、受け止め、寄り添う大切さ～ 大分市人権・同和教育研究会　（元:南大分中学校　現:日出町立日出中学校）川野　豪 生徒自身が考え、行動することで、人とつながる豊かさに気付いてほしい―。そんな願いのもと教師が自らを語る。3年間にわたって部落問題学習を積み重ね、今なお身近に存在する差別の現実をみつめさせる実践の報告。

報告番号	タイトル・報告者・概要
6	「やっぱ、ムラ（被差別部落）のこと、勉強せんと。」 臼杵市部落差別解消推進・人権教育研究会　（佐志生小学校）赤嶺　恵子 部落解放学習にとりくみ、自分のことを話していく中で、Ａさんの気持ちや生活背景を知り、自分の認識の甘さに気づくとともにムラの方々の思いにもっと近づかなければならないと思わされた経過の報告。
7	私が「うつる」病気を通して考えた大切にしたいこと　～『あなたが大事』～ 津久見市人権・部落差別解消推進教育研究会　（津久見小学校）朝木　孝枝 新型コロナウイルス感染症は、多くの差別事象を引き起こしている。さまざまな「うつる」病気を通して考えてきたことから、子どもととりくみをすすめ、子どもが自他を大切に思う気持ちを育むにはどうあればよいか考えてきた報告。
8	30人がなかまに　～「結婚差別」の授業実践を通して～ 豊後大野市人権・部落差別解消教育研究協議会　（犬飼中学校）鎌田　雅文 「結婚差別」の授業研究や実践を通して、部落問題解消教育に対する私自身の考え方の変化があった。その考え方の変容と、具体的な公開授業、クラスでの取り組みの実践を報告します。
9	信じ続け、本気で向き合う 玖珠郡人権教育・部落差別解消推進研究協議会　（塚脇小学校）吉高　遼 周囲とのコミュニケーションに困りを抱えるＡさん。Ａさんとの信頼関係を築くため、Ａさんと時間をかけて向き合うことから始めた。Ａさんとの関わりから、教職員の連携、友だちとの繋がりを考え、実践した取り組み。
10	地域に拓く　～ある支援学校教員の挑戦 宇高地区高等学校人権・同和教育研究会　（元:宇佐支援学校　現:爽風館高等学校３部制）糸永　信哉 筆者が普通科校からの異動で初めて出会う支援学校の世界。それ以外の世界との間に壁を感じ、それを乗り越えるためにアートやものづくりの力を利用し、近隣高校との交流にまで展開していった４年間の記録。
11	日出支援学校と日出総合高校との学校間交流を通して 国速杵地区高等学校人権教育・部落差別解消推進研究会 （日出総合高等学校）吉良　和秀・寺尾　友美・（日出支援学校）小野　聖良 国道を挟んで位置している２つの学校。学校間交流は必要だと感じながらも、なかなか踏み出せずにいた。笑顔で交流する子どもたちの姿から、交流教育の大切さを学んだ。「案ずるより産むが安し」である。
12	「私は男として卒業式に出席する」～人権問題に向き合うきっかけと現代の学び～ 大分地区高等学校人権・部落差別解消教育研究会　（大分鶴崎高等学校）三原　将弥 Ａさんは、高校３年間、性への違和感を覚えていた。高校卒業を機会に、男としてカミングアウトする現場に立ち会った。私がLGBTQ問題を考えるきっかけと、生徒との関わりについて報告し、現代の人権問題を総合的に考える。

【 第３分科会 】　自主活動

報告番号	タイトル・報告者・概要
13	本当の気持ちを聞き続ける 中津市人権教育研究協議会　（如水小学校）片桐　奈美 始業式の日に友だちをけり、その理由を聞いても何も返事をしなかったＡさん。活動についていけず、階段の裏にかくれていたＡさん。そのＡさんが友だちに「教えて」と言えるようになるまでの２年間のとりくみ。
14	Ａさんの自立と自己実現を願って 杵築市人権・部落差別解消教育研究会　（杵築中学校）末房　宏和 友だちとの間にトラブルの多かったＡさん。お互いを肯定的に認め合う中で、自己実現していくＡさんとクラスメイトの様子から、つながることの大切さに気づかされた。

報告番号	タイトル・報告者・概要
15	セクシュアリティについて考える　～自分らしさって何だろう？～ 由布市人権・部落差別解消教育研究会　（挟間中学校）永松　千春 ある生徒が中学入学時に「制服を着たくない」という思いを発する。最初は制服をどうすればよいか。その後、性別をこえて本当の自分らしく生きるとはどうあればよいかを、生徒と教職員も考えていった実践。
16	自分の大切さと他の人の大切さを認めることができる民主的な学級・学校集団をめざして 竹田人権・部落差別解消教育研究会　（竹田小学校）釘宮　基人 落ち着かず、学びに向き合えない３年生学級。自他を大切にし、共に学びに向かう学級集団をめざして、授業、日常活動、人権集会等を通して、子どもたちの「自主性・自律性」「他者意識」「自己表現力」を育てる実践報告。
17	みんなで伸ばそう！高めよう！「三芳のチカラ」 ～自己有用感を高めながら、ともに認め合うなかまづくり～ 日田市人権・部落差別解消教育研究会　（三芳小学校）南　朋子 児童アンケートをもとに、児童の実態からスタート。児童の自己有用感をどう高めていくか、入門期の児童の人権感覚をどう育てていくかなど、全教職員で取り組んでいった実践です。
18	向き合い、差し伸べ、背中を押す 久大地区高等学校人権・部落差別解消教育研究会　（玖珠美山高等学校）杉山　賢輔 初めて担任をしたクラスに、中学校の時から不登校であった〇君が入学してきた。先輩教師の助言や保護者・医療機関等との連携を行い、自立をめざした２年間の実践報告。

【第４分科会】　進路・学力保障

報告番号	タイトル・報告者・概要
19	外国にルーツを持つ子どもたちとのつながりづくり ～初めて日本に来たＡさん、Ｂさんとの出会いを通して～ 別府市人権教育・部落差別解消推進研究会　（別府中央小学校）山村　美香・八木　梨沙 本校には、外国にルーツを持つ児童が20人程いる。その中には、日本語が全く話せない児童が数人いる。昨年転入してきた姉弟が友だちと仲良くなるために、クラスで取り組んだことやどのように支援したかをまとめた。
20	心に寄り添った学力保障 佐伯市人権・部落差別解消教育研究会　（佐伯城南中学校）岩﨑　千晴 入学直後の臨時休校。分散登校後に自分の困りを担任に打ち明けたＡさん。Ａさんと保護者の思いを尊重しながら、担任が試行錯誤を重ねながら寄り添い、一緒に過ごした実践報告。
21	Ａさんの『なりたい』自分の実現に向けて ～路線バスの利用をめざした生活単元学習の授業を通して～ 中津地区高等学校人権・部落差別解消教育研究会 （中津支援学校）仲田　久美・山根　幸治・久保　美紀 「本人・保護者の願い」や「学びに向かう気持ち」を大切にし、学校研究のテーマである「『なりたい』自分に必要な力」を育む授業実践に基づいた生活単元学習の授業実践について報告する。
22	2019年度の明豊高校における人権研修について 別府地区高等学校人権教育・部落差別解消研究会　（明豊高校）今田　翠 生徒たちに命の大切さについて考える機会を持ってほしいという願いから、「こうのとりのゆりかご」に携わってきた田尻由貴子先生に講演を依頼しました。これから自立していく生徒たちにとって貴重な機会になりました。

報告番号	タイトル・報告者・概要
23	**生徒の「困り」の早期発見に向けた取り組み** 県南地区高等学校人権・同和教育研究会　（海洋科学高等学校）前田　陽一 生徒は様々な「困り」を持っているが、生徒が自主的に教員に相談に来たり、教員が気づくのはある程度深刻な状況になったりしてからのことが多い。これを小さな困りのうちに気づき対処できるよう、本校で取り組んでいる「生徒情報連絡会」「健康保健調査」について紹介する。
24	**本校の就労先決定までの具体的な取り組みについて** ～自分の将来をどう選び・どう決定していくのか～ 豊肥地区高等学校人権・部落差別解消教育研究会　（竹田支援学校）永田　正典 Ａ君が学校での「産業現場等における実習」など様々な取り組みを通して、周囲の支援を受けながら将来の進路（働くこと・生活すること）を選択し、決定していくまでの取り組みについての報告。

【第５分科会】　学習・啓発活動

報告番号	タイトル・報告者・概要
25	**意識調査をふまえた部落差別解消推進法について** 竹田市役所　人権・部落差別解消推進課　阿南　輝明 2020年（令和２年）に行った市民人権意識調査では、部落差別解消推進法の認知度が25％と低かった。これをふまえ竹田市での部落差別解消推進法の啓発活動を報告。
26	**九重町における人権教育・啓発の現状と課題** 九重町教育委員会　社会教育課　井上　直樹 九重町社会教育課では主にＰＴＡを対象とし、部落差別解消・人権啓発を進めるための連続講座「なるほど“ザ”人権講座」を実施している。その取り組みから新たな人権啓発と教育の担い手を育てる取り組みの報告。

【第６分科会】　人権のまちづくり

アドボケイトの取り組み

大分県では、アドボケイトの養成と活動を国のモデル事業として実施している。子どもアドボケイト活動とは、子どもの意見表明権を守るためのものであり、大分県では社会的養護が必要な子どもたちに係わる取り組みとなっている。アドボケイトとは、どんな人なのか。活動の意義と子どもたちの声を聞くことの大切さを、子どもアドボカシーの定義と理念とともに報告する。

報告番号	タイトル・報告者
27	**子どもアドボカシーの理念について** 大分大学福祉科学研究科　相澤　仁
28	**大分県における子どもアドボケイトの取り組み** 大分県子育て支援課　谷本　幸子

だれもが参加できる講座をめざして　オープン講座

大分県人教の「オープン講座」は、会員だけでなく広く県民に参加を呼びかける無償の事業です。多いときで100人を超える参加者があります。コロナ禍での開催ですので、密を避けるように席の間隔をとったり、窓は常時開放したりしながら、参加者が安心して学べるような運営を心がけています。

今夏は３本のオープン講座を開催しました。１回目は「部落差別解消に向けたスキルアップ学習会」にあわせて開催し、東京都立南葛飾高等学校定時制教諭の桐畑善次さんにオンラインでの講演をお願いしました。講演終了後も、会場参加者の発言に、一つひとつ丁寧に応えていただきました。

OP講座①　私にとっての部落とは何か～子どもの現実、差別の現実と出会うということ～

桐畑 善次 さん
（東京都）

定時制に通う子どもたちと社会の不合理と闘い続ける毎日を伝えていただきました。講演の中では、外国人差別と向き合い闘おうとする子どもたちの様子を劇化して学び合う場を保障する姿や、どうすれば子どもたちを守れるのかを同僚の先生方に伝えていこうとする姿が印象的でした。

・「就職差別」が身近な問題としてあり、生徒たちや教師たちがともに闘ってきたという実体験の姿にはじめて出会った。
・子どものことを「人」として、信じて向き合っている姿がとても素敵だった。自分事として差別と向き合えてない自分に気づかされた。
・「人に何かひどいことをしたという自覚がある人は、人権教育に取り組める」という言葉に納得。自分と向き合い、自覚することが大切。

第２回と第３回は、学校の夏季休業中に同日開催しています。例年であれば、学校の職員研修として全員で参加してくださる学校もあるような人気の研修なのですが、今年度は出張をひかえる傾向もあったようで参加者数は若干少なかったですが、県内ほぼすべての市町村から参加していただきました。

第２回の講師は、熊本県南阿蘇村で奮闘されている杉本敏也さん。人がもつあたたかさを大切に伝える姿に、「来年はうちの町で話してほしい」と話される参加者も複数いました。

OP講座②　明日はいい日になる

杉本 敏也 さん
（熊本県）

部落差別とどのように向き合ってきたのか。自分の中にある差別性とともに、身近な存在の人と向き合いながら乗り越えてきた、また乗り越えようとしている実体験の数々。ともに歩む中で、しんどさだけではなく人のあたたかさやゆたかさを一つひとつ確かめた90分間でした。

・知識として学ぶこともよりも心でお話を聞くことができた。実践事例がたくさんあり、自分の生活とも重なり涙を流しながら聴きました。
・「教育は人をつくる」ということを改めて感じた。お話を通じて、「ゆたかさ」や「幸せ」について考え直す機会をいただいた。
・自分がとらえてきた母の姿。「しんどさ」だけで終わらず、「明るさ」が全面にあった。幸せが日常の中に隠れていることを知った。

第３回の講師は、熊本学園大学の堀正嗣さん。子どもの人権を柱として、ともに生きる社会をどのように築くか、私たち一人ひとりの向き合い方を子どもたちの姿を提示しながらともに考える時間となりました。

OP講座③　子どもの人権とインクルーシブ教育

堀 正嗣 さん
（熊本県）

人権を人間としての権利と考えると義務は何なのかという議論になります。しかし、人権は権利とは大きく違い、義務はなくても誰もが尊重していかねばならないものであることを再認識しました。ビデオで子どもの学びの場を共有しながら、一人ひとりに応じた教育の必要性を考えました。

・その場になじめず、クラスに行きたがらない子どものことを思い出し、場づくりの大切さを感じた。
・関わる・知る・学ぶことが当たり前にできる環境、そのようなシステムはどのようすれば学校現場に創っていけるのかを考えた。
・法律や知識を教育の実情につなげた話で分かりやすい。知識を持つことと実践的な経験を積むことの両方が必要だと感じた。

あなたのまちに届けます　出前オープン講座

「いつも県の教育会館でばかりオープン講座があるので参加できない」という県民の意見から始まった「出前オープン講座」。年間３回の開催を予定し、希望する研究会を募集しています。今回は臼杵市部落差別解消推進・人権教育研究会のリクエストで、一法師英昭さんの講座をオンラインで臼杵市の全義務制校に届けてほしいという要望に応えました。同時に県内すべての市町村にも参加希望を募ったところ373人もの参加があり、一法師さんの講演とともにオンライン開催の需要が高いことが分かりました。

今年度はあと２枠残っていますが、決定次第、各地区研究会や県人教HPでご案内します。

出前OP講座①　部落史研究と部落史学習をどうつなぐのか－部落差別解消のために－

一法師 英昭 さん
（大分県）

部落問題学習を始める時に、大切にしてほしいことをお話願いました。「こうだろう」という自分の認識に対して、「本当にそうなのか」という視点を投げかけるとともに、事実を元にした正しい知識を持つことの大切さにふれ、資料に関連づけて話される分かりやすい講演となりました。

・「過去と現在を子どもたちがはっきりと意識できる言葉をつかう」そのことを意識していなかった自分と実践をふり返る機会になった。
・「部落史を学ぶ」のではなく「部落史で学ぶ」こと。何のためにこの教材を学習するのかを明確にし、授業を組み立てていきたい。
・小6の教科書にどのように記述されているのか、担任だけでなく全教職員が知っておく必要性を感じた。

What's じんけん

共に生きる社会をめざして

その３

第３回オープン講座講師の堀正嗣さんの演題が「子どもの人権とインクルーシブ教育」でした。１年間を通して「インクルーシブなまちづくり」を考えていきますが、身のまわりにあるたくさんの課題に向けたヒントや視点をいただけました。参加されたみなさんの感想・意見を紹介します。

「インクルーシブ」を辞書で引くと「包含」とか「包括」という風に出てきます。僕は、同じような意味の語として「包摂」という言葉を授業などで使っています。例えば、「君たちは成功したとか失敗したとかいうけれど、その二つを『包摂』して一語で言うと何になる？」などという風に…。成功と失敗という二元論で考えるのではなくて、一つレベルを上げて考えさせています。私の答えは、「経験となる」です。「人生は経験なり」という言葉があるように、成功も失敗もどちらも人間にはつきもので、要はその経験を受け容れられることが次へのステップになると思っています。

講演で堀さんは、「（子どもたちはおとなから）尊重されてきたから自然にできる」と言われました。子どもたちが失敗も成功もひっくるめて、いい経験だったと感じて自分を伸ばすことができるのは、周りのおとなたちが二元論的に考えるのではなく、すべてを寛容に受け容れる（包摂する）心があってこそなのだと感じました。

また、堀さんは、ある先生の言葉として「私の仕事は、できるだけ何もしないことだ」を紹介しました。「仕事」とは「事に仕える」と書きますが、子どもに対しておとなができる仕事は、「できるだけ何もしない」ということです。それは、尊重して見守り、何か危険なことがあれば抱きとめることなのだろうなと思っています。

講演の終盤で「一緒にいると何かが生まれる」という映像を鑑賞しましたが、人は関係性のなかで縁を結びます。そして、誰しも楽しく豊かにありたいと思っています。だからこそ、一人ひとり自分とは異なった他者（自分の想像を越える他者もいると思いますが…）と、どういう風に関わっていくかということがポイントになると思います。不登校ゼロの学校（大空小学校）では、一人ひとりの子どもが尊重されているのだろうし、そのような場所（環境）を創っていけるのは、そこにいる人たちに他ならないのだと改めて考える時間となりました。

子どもたちに「将来のために」「おとなになったら」等の発言をする自分が、いかに上から目線で子どもに対応していたかを痛感しました。色々な所に出かけた時に、「大人」「小人」といった表現をおかしいと思っていない自分にも気づかされました。日常生活の中で、人を下に見たり、差別的に見たりしている表現がどのくらいあるのかも知りたいと思いました。

講師が大学のゼミ生に対して、これまでの学校生活のことを尋ねたときに、「担任の先生はいじめに気づかない」と言っていたと聞きました。自分が担任している子に、どれくらい向き合えているのか、教科指導だけに重きをおきすぎていないか、悩みを言えない子に声かけができているのか、これまでの自分を反省しました。

インクルーシブ教育が、今後どの教育現場でも進めていけるような条件整備や予算増の取り組みがまだまだ始まっていないようにも思えました。一人ひとりを大切にする教育をめざして、２学期の準備をしたいです。

こどものまなざし

このコーナーでは、今年度の人権作文集「ひかり」に掲載された作品を紹介していきます。子どもたちが日常の生活の中で考えたこと、感じたことなどにふれ、子どもたちの姿から学んでいきたいと思います。

あの子は、すごい ～一部抜粋～

～前略～

ある日の授業で、私はその子から大切なことを教わりました。

「私は、目と耳が悪くて、小学校のころから気持ち悪がられていました。でも、学校の先生が『やれることをやってみるといい。』と言ってくれたので、今でもその言葉を大切にしています。」と。そしてその人は歌を歌い始めました。すごく上手できれいな歌声でした。その歌声を聞いて、ハンデのあるなしに関係なく、私にはその人がとても輝いて見えました。

～中略～

今は昔に比べて、差別が少なくなったように思います。しかし、ハンデを持った人々への差別が今も続いていることは事実です。私は、差別をなくすための第一歩として、一人ひとりが命の大切さに気付き、差別をなくすための行動をすることが大事だと思います。そうして、ハンデを持っていても、持っていなくても、だれもが輝けるような明るい未来を創りたいです。

「困っている人を見つけたら、声をかけて相談にのる」これが私なりの差別をなくすためにできる行動です。

2021 年度　人権作文集ひかり　第 33 集
豊後大野市　中学校　一年　幡手愛理さんの作品より

人が輝いて見えるとき、輝いている人も、それを見ている人も、お互いが大切にされているときではないでしょうか。お互いの人権がしっかりと守られているとき、と言いかえることもできるでしょう。

今、多くの人の努力により、「障害」者差別や部落差別をはじめ、さまざまな差別の問題を解決していこうとしています。しかし、残念なことに、新型コロナウイルス感染症に関連した新たな差別が生まれてきてもいます。「だれもが輝ける」社会には、まだ至っていないのが現実でしょう。

差別がなく、「だれもが輝ける」社会をつくるために、私たちに求められていることは、作者の幡手さんのように、他者の思いから学び、自ら考え、行動しようとすることだと思うのです。

INFORMATION

第15回ヒューライツ作品の募集について

募集内容が変わります。
絵画・造形物などもOKです。

2007年から、スタートしたヒューライツ・ライフ写真コンテストですが、15回目を迎える2021年度募集から、写真だけでなく、多様な表現を発表できる場に変更します。

絵画や、造形物（粘土など）の作品も募集します。このことで、応募者の年齢層など多様化できると考えます。

そこで、会員の皆さんからの応募のみならず、近所の方などにも声かけをお願いいたします。

今年度 テーマ 「なかま」

今年も様々な困難を一緒に乗り越えてきたなかまや、嬉しいとき、悲しいとき、支え合ったなかまのことを思いながらの作品を募集します。

応募要領

- どの作品もLサイズ以上の写真に撮影する。　カラー、白黒いずれも可。
- なまえ（ふりがな）・郵便番号・住所・電話番号・タイトル・コメント（30字程度）を添付。
  ・乳幼児期・小・中・高校生については、所属（園名・学校名など）、学年を付け加えて保護者を通じて応募してください。記載漏れのないようにお願いします。
- 応募作品は、返却しません。
- 応募作品は、未発表のものとします。
- 応募作品の著作権は応募者に帰属し、使用権は主催者に帰属します。応募作品は大分県人教関連の出版物や展示物など、多方面において無償で永久的に使用できるものとします。
- 応募作品は、必ず被写体や制作者の了承を得たものとします。
- 万一、上記の応募要領に反し、当団体と被写体等との間で、問題が発生した場合は、応募者の責任において解決するものとします。

応 募 先：870-0951　大分市大字下郡496-38　大分県教育会館２階
（公社）大分県人権・部落差別解消教育研究協議会
「第15回　ヒューライツ作品」　申し込み係

応募方法：郵送または持参

しめきり：**2022年１月14日（金）**

賞　　品：入賞者には図書カードを進呈します。多種多様な作品になるので、今までのような大賞などはつくりません。発送を持ってお知らせに代えます。

【表紙の写真】　タイトル「いとこ同士」　佐藤はるかさん（大分市）